



No. 3

豊橋市 図書館だより

ネット版第3号 平成26年5月1日

〈編集・発行〉

豊橋市中央図書館

〒441-8025 豊橋市羽根井町48 TEL.0532(31)3131

豊橋市配本センター

〒440-0862 豊橋市岡山大池町25-1 TEL.0532(62)2944

図書館ホームページアドレス

<http://www.library.toyohashi.aichi.jp>

メールアドレス

admin@library.toyohashi.aichi.jp

司文庫

開設40周年



つかさぶんこ

司文庫は昭和49(1974)年11月1日に、
豊橋市出身で名誉市民のつかさただし
司忠さんからの寄附によって創設された全国でも珍しい洋書文庫です。今年、開設40周年の節目を迎えました。

40年経った現在でも、司さんの遺志を引き継ぎ、「人がはじめて出会う教科書、絵本」「市民の生活に役立つ各種図鑑」「生活に潤いをもたらす、創造性を豊かにする各種美術書」「世界の古典」を中心に収集しています。今では蔵書が、3万4千冊余りになり、言葉の壁を越えて幅広いの市民の方々に利用されています。

毎年6月には、司文庫の特徴を活かした展示（司文庫展）を中央図書館の2階展示コーナーで開催しています。

..... 目 次

P.2 【特集】豊橋文学めぐり

「ふるさとの歴史をたずねて」

P.3 夏休み子どもフェスティバル

【収蔵品紹介】『食道楽』村井弦斎著

P.4 特別整理期間のお知らせ

配本センターだより

特集 豊橋文学めぐり「ふるさとの民話をたずねて」

みなさんは自分の住んでいるこの豊橋に、たくさんの伝説や民話があることをご存知ですか？家の近所にあるお地蔵さまや林の中にひっそりと佇む祠など、どうしてあるのか考えた事があるでしょうか？

豊橋市図書館では毎年春と秋に豊橋文学めぐり「ふるさとの民話をたずねて」を開催しています。このイベントは平成 18 年に発行された郷土の民話集『片身のスズキ』に収録される民話をもとに、その民話が生まれた地をバスで訪れるというものです。

郷土史家の中島三郎氏による解説と、豊橋の民話を語りつぐ会の皆さんによる民話の語りで、市内で生まれた民話やその背景を実際の土地に行って学ぶ事のできる図書館の人気イベントです。



豊橋の民話 『片身のスズキ』

山口孝雄／監修 豊橋の民話を語りつぐ会／発行

豊橋市内の各校区にまつわる民話を集めた民話集で全53話を収録しています。豊橋市図書館で借りることができます。詳しくは職員にお尋ね下さい。

今年度の開催は5月14日（水）です（申込み期間は終了しました）。ここで今回取り上げる4つの民話について簡単に紹介をします。

●雨乞いの面（西郷校区）

石巻萩平町にある日吉神社には5つのお面が保管されています。昔は日照りが続くと、神さまに雨を降らしてもらおうようお願いする「雨乞い神事」があちこちで行われていました。この地ではお面を祭壇に飾り、神事を行ったそうです。このお面にはどのような力があったのでしょうか。

●山の背くらべ（石巻校区）

石巻町にある石巻山。頂上は大きな岩がむき出しになっています。これは昔、石巻山と本宮山が背比べで喧嘩をしたことからできたという言い伝えがあります。この勝負の行方と、それからの村人たちの努力に注目です。

●道しるべ稲荷（旭校区）

東田町桜ヶ丘公園の一角にひっそりと祠が建っているのをご存知ですか？「みちびき稲荷」ともよばれるその稲荷は、今では交通安全を祈願して参拝する方もいます。この民話は江戸時代（明和の頃）、吉田藩にいた松平伊豆守という殿様のお話です。

●豊川を流れた黒牛（牛川校区）

ある年に三河に大雨が降り、豊川の水が堤防を飛び出しそうになりました。そのとき上流から流れてきたのは1頭の黒牛。この黒牛の角には何かが提げられていました。牛川校区にある地名にも関係のある民話です。

平成25年度豊橋文学めぐりの様子です。
嵩山寺にて民話の語り聞きをしました。
保管されていた経本も見せて頂きました。



豊橋にはまだまだ皆さんの知らない民話や言い伝えが数多くあります。興味を持って調べてみるのも面白いかもしれません。

文学めぐりは秋にも予定しています。多数のご参加をお待ちしています！

夏休み子どもフェスティバル

中央図書館読み聞かせボランティアの会のみなさんが、子どもたちに夏休みの一日をおはなしなどで楽しんでいただこうと、毎年行っているイベントです。大型絵本を中心に、パネルシアターなどわくわくする催しがいっぱいです！

●第1回●

【と き】7月19日（土）
午後2時～3時
【ところ】中央図書館集会室（3階）



紙人形劇（ペープサート）



うさぎのダンス♪

●第2回●

【と き】7月26日（土）
午後2時～3時
【ところ】市民文化会館リハーサル室

『食道楽』 村井弦斎著

収蔵品紹介

これは、村井弦斎の小説『食道楽』です。弦斎は豊橋出身の新聞作家で、明治～大正にかけて活躍しました。

『食道楽』は、報知新聞に明治36（1903）年の1年間連載された、弦斎の代表作です。内容は大食漢の主人公、大原満とヒロインお登和の恋愛を描きつつ、数々の料理を紹介するというものです。現代でも人気のあるグルメ作品の先駆けといえるでしょう。



『増補注釈 食道楽』当館蔵

■弦斎ゆかりの品を展示します！■

生誕150年記念 村井弦斎展
—豊橋生まれのベストセラー作家—

と き：平成26年4月26日（土）
～6月8日（日）
ところ：中央図書館2階展示コーナー
入場料：無料

連載当初から大きな反響を呼び、単行本になっても1か月の間に再版に再版を重ね、10万部以上の売れ行きであったといわれています。大変な人気であったため、本の原材料が高騰したとの逸話も残っているほどです。

豊橋市図書館には、平成8年にご遺族から弦斎ゆかりの品々が寄贈されています。この『食道楽』もそのうちの1つです。

多少色あせてはいるものの、当初の鮮やかな体裁を今も伝えています。



特別整理期間のお知らせ

6月27日(金)～7月3日(木)まで、図書館は特別整理期間のお休みをいただきます。1週間をかけて、図書館のスタッフが力を合わせて本を一斉に点検します。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。休館中の返却は、返却ポストをご利用ください。二川・石巻・北部・青陵・南部・牟呂地区市民館、アイブラザ豊橋、こども未来館の図書館分室も上記期間中は貸出・返却を休みます。インターネット予約についても予約本確保の連絡はいたしませんのでご了承ください。

■特別（3週間）貸出

特別整理期間にともない、図書の特別（3週間）貸出を行います。

期 間：6月13日(金)～26日(木)

貸出冊数：10冊

返却期限：貸出日の翌日から3週間以内

中央図書館、配本センターの場合

日	月	火	水	木	金	土
6/8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	7/1	2	3	4	5

…休館日 …特別貸出期間

は～い! **本!**です!
配本センターだより
～本と自然にかこまれて～



豊橋市民文化会館
自然に囲まれとても心地の良い環境です

こんにちは！豊橋市民文化会館内にある“配本センター”です。

春です！新年度です！様々なところで、色々な変化が訪れる季節ですね。

向山の太池公園内にある“配本センター”は、春は桜…からはじまり、四季を通じてたくさんのお木々たちが様々な表情を運んでくれます。心地の良い季節は、太池のほとりでお散歩や読書…なんて、素敵ですね。ちなみに…池のまわり一周をゆ～っくり散策してみたところ、約15～20分ほど…。身体も心もなんだかほかほか…。また、池の真ん中の太池橋を渡ると、水を肌で感じられ、豊橋の街の中でとても優雅な気分になれることができます。さわやかな空気をたくさん取り入れて、良い心地です。



配本センター内の小コーナー
「とよはし知っとる?ガイド」

配本センターのメンバーも新年度。異動と共に9名中4名が新顔となり、新体制で職員一同、みなさんの憩いの場として、また、豊橋市全域に“本を配る”ポンプ機能の役割を果たせるよう日々前進してゆきたいと思っております。

さて、館内の様子ですが、この度「とよはし知っとる?ガイド」と題しまして、ちょっとした小コーナーをご用意させていただきました。豊橋市や豊橋市周辺に関連するパンフレット・ガイドなどをまとめたコーナーとなっております。

本や資料を通してみなさんのお役に立てるよう、心がけてゆきます。ほっとひととき…本と自然にかこまれた豊かな時を過ごしに、どうぞお立ち寄りくださいね。